

野菜・果物不足の解消を

北國健康生きがい支援事業

女子栄養大名誉教授らが講演



講演に聞き入る出席者
講堂

北國健康生きがい支援事業の今年度第1回金沢学院プログラム「野菜・果実と健康のサイエンス」は11月20日、金沢学院4号館講堂で開かれました。研究者2氏が講演し、野菜と果実が健康維持に果たす役割を強調し、できるだけ多く取るよう呼び掛けました。

女子栄養大の吉田企世子名誉教授は「野菜・果実摂取量にみる日・欧・米の健康志向」と題して講演しました。1人一日当たりの野菜摂取の目標量350gに対し、日本人の平均摂取量は約100gで米国人より少ないとのデータを示しながら「特に若い人の食べる量が足りていない」と指摘しました。

一日の目標200gに対して摂取量約55gの果物に



協定書を手握りする榎木学長（右）と杜院長
学長室

単位互換留学協定に調印

金沢学院大と大連理工大 29日、中国大連理工大学 外国語学院との友好協力協定を改定し、単位互換を行う短期留学制度の導入を合意しました。

2001年に協定を結んで以来、学術と教育の交流を通じて両大学の友好を深めてきました。今回の改定で、友好協力関係を一層強めていく方針です。

金沢学院大学学長室で調印式が行われ、榎木学長と大連理工大学外国語学院の杜鳳剛院長らが協定書に署名をし、握手を交わしました。

単位互換を行う留学協定を結んでいる海外の大学はほかに、英国エクター大学、米国シアトル大学、カナダ州立カモソン・カレッジがあります。

東四柳教授に北國文化賞



賞を受賞した
北國文化賞
東四柳教授

ついでには、オランダが日本の3倍以上食べていることを例に挙げ「日常生活に果物をもっと気軽に取り入れよう」と勧めました。

続いて、首都大東京大学院人間健康科学研究科の福家洋子教授が「食生活の工夫によるがん予防」をテーマに講演し、免疫の仕組みなどを解説した上で「がんの発症リスクの30%は良くない食習慣にある」と強調。キャベツ、ブロッコリー、ニンニクをはじめ、多くの野菜に抗がん作用を持つ成分が含まれていると紹介しました。

金沢学院大学美術文化学部の東四柳史明教授は11月3日、北國新聞社が文化、美術などの分野に貢献した人たちに贈る第64回北國文化賞を受賞しました。

東四柳教授は、県内の20以上の自治体史編纂に携わるなど郷土史の発展に寄与し、歴史資源を地域の活性化に生かす活動に力を注いできたことが評価されました。

太陽電池式の時計塔設置



環境に優しい太陽電池式の時計塔Ⅱ写

大学同窓会「翠会」

真Ⅱが、3号館入り口付近に設置されました。LEDで文字盤に明かりが灯りま

す。従来の時計塔が古くなり、大学同窓会「翠会」が寄付しました。

吹奏楽部が演奏会
金沢学院大学・同短大吹奏楽部の第16回定期演奏会が12月12日、金沢市の県文教会館で開かれ、部員や卒業生ら約30人が息の合った演奏で来場者を魅了しました。

演劇部が成果披露

金沢学院大学演劇部「演劇集団ROUGH」の第12回公演「MONSTER」が12月11、12日、金沢市民芸術村で行われ、部員9人が7月からけいこに励んできた成果を披露しました。

みやびやかに演奏

第35回金沢学院短大・第21回金沢学院大学邦楽演奏会Ⅱ写真Ⅱが11月27日、金沢市の県教育会館で開かれ、邦楽部員ら11人が箏や三絃などでみやびやかな演奏を繰り広げました。

